伐 採 に 係 る 森 林 の 状 況 報 告 書

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 年　　月　　日

　登米市長　熊谷　盛廣　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　報告者　氏名

　　年　月　日に提出した伐採及び伐採後の造林の届出書に係る森林につき次のとおり伐採を実施したので、森林法第10条の８第２項の規定により報告します。

　１　森林の所在場所

|  |
| --- |
|  　　　 　　　市　　　　　　　　町 　 　　 　　　 　　　大字　　　　　　　　字　　　　　　　　地番 　　　　 　 　郡　　　　　　　　村 |

２　伐採の実施状況

|  |  |
| --- | --- |
| 伐採面積 | ha(うち人工林　　ha、天然林　　ha)　 |
| 伐採方法 | 皆伐・択伐 | 伐採率 | ％ |
|  | 森林所有者（造林する者）の伐採跡地の確認の有無 | 有　・　無 |
| 作業委託先 |  |
| 伐採樹種 |  |
| 伐採齢 |  |
| 伐採の期間 |  |
| 集材方法 | 集材路・架線・その他（　　　　） |
|  | 集材路の幅員・延長 | 幅員　　　　ｍ　・　延長　　　　ｍ |

３　備考

|  |
| --- |
|  |

注意事項

１　報告に係る森林の所在する市町村ごとに提出すること。

２　森林の所在場所ごとに記載すること。

３　面積は、小数第２位まで記載し、第３位を四捨五入すること。

４　伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。

５　樹種は、すぎ、ひのき、まつ（あかまつ及びくろまつをいう。）、からまつ、えぞまつ、とどまつ、その他の針葉樹、ぶな、くぬぎ及びその他の広葉樹の別に区分して記載すること。

６　伐採齢欄には、伐採した森林が異齢林の場合においては、伐採した立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「（○～○）」のように記載すること。

樹種別の造林本数欄の記載方法について

・原則として、都道府県毎の天然更新完了基準に定められた更新調査（標準地調査）の結果を元に造林本数欄に更新本数を記載する。

・ただし、調査せずとも天然更新完了基準を明らかに満たしていると判断できる場合（例えば、小面積の伐採等）には、造林地の写真その他の更新状況のわかる資料を添付することにより、「別添のとおり」と記載することができる。

※更新樹種の稚樹の生存、生長を阻害するササ、低木、シダ類、キイチゴ類、高茎草本等の競合植物の草丈を超える更新樹種の稚樹が多数成立するなど、明らかに更新の判断基準を満たしている場合には、写真や目視によりチェックリストなど更新状況のわかる資料を添付すること。

（資料の例）

・写真の場合：造林地の全体の遠景写真、更新樹種の生育状況（高さや成立本数）がわかる近景写真（代表的な更新樹種がわかる近接写真を含む。ｈa当たり５箇所）

・チェックリストの場合：以下のチェック項目を目視により確認。

* 更新樹種の稚樹の樹高が周囲の競合植物の草丈を十分に上回っている。
* 更新樹種の稚樹の本数が半径　ｍの円内に　本以上生育している。
* 伐採跡地が全体的に更新されている。